

科目ナンバリング		U-LAS60 10003 OJ17											
授業科目名 <英訳>		統合科学・少人数演習付：実践的・人文社会科学入門 YP03 Integrated Liberal Arts and Science with Small Group Seminars :Introduction to Pragmatic Humanities and Social Sciences YP03					担当者所属 職名・氏名		工学研究科 准教授 川端 祐一郎 人間・環境学研究科 准教授 柴山 桂太 経営管理大学院 特定准教授 濱崎 洋介 工学研究科 教授 藤井 聡				
群	統合科学科目群				分野(分類)		統合科学			使用言語		日本語	
旧群		単位数	4単位		週コマ数		2コマ		授業形態	講義＋演習（対面授業科目）			
開講年度・開講期	2025・前期		曜時限	月2・4			配当学年	全回生		対象学生	全学向		
【授業の概要・目的】													
哲学や文学等の「人間の精神や文化を主な研究対象とする学問」たる人文学や、社会学、経済学、政治学、社会心理学等の「社会科学は人間集団や社会のあり方を主な研究対象とする学問」たる社会科学は、そのそもそもの定義からして「実践的」な知的営為である。人間の精神や文化、人間集団や社会はすべて「実践」する主体だからである。しかしながら、人文学、および社会科学（すなわち人文社会科学）はこの近代においてその活動を拡大するにしたがって半ば必然的に細分化が進行している上、政策手段をめぐる科学的知見と目的設定に関わる価値や思想の議論が分離しているために、その実践性が激しく喪失されている。本講義では、こうした実情を憂い、人間・環境学研究科、経営管理大学院、そして工学研究科の認識的实践及び実践的認識を旨とする教育研究と実践に共同で日々推進している複数の教員が集まり、政策との関わりを視野に入れた、人文社会科学の基礎概念を包括的・有機的に講義する。本講義ではそうした講義に合わせ、当該講義内容を踏まえた実践的テーマのゼミを同時進行で行うことを通して、認識的实践及び実践的認識に関わる見識および教養の涵養を目指す。													
○統合型複合科目分類 【文・文】 主たる課題について文系分野の要素が強く、副たる課題についても文系分野の要素が強いと考えられるもの													
【到達目標】													
哲学や文学等の「人間の精神や文化を主な研究対象とする学問」たる人文学や、社会学、経済学、政治学、社会心理学等の「社会科学は人間集団や社会のあり方を主な研究対象とする学問」たる社会科学についての横断的基礎的教養を包括的に身につけ、その基礎的教養を活用して政治経済的、社会的文化的諸問題を適切に解釈し、そのために求められる必要な実践の方向性を見いだす基礎的能力を身につけること。													
【授業計画と内容】													
（この授業では、講義と少人数演習を併せて学びます。講義のみ、少人数演習のみの出席では授業の到達目標に達しません。なお、このシラバスでは共通の講義部分と、少人数演習・C班「文芸批評と人文社会科学」（担当：川端・柴山・浜崎）の授業計画と内容を記します）													
講義 （全15回） 月曜2限・共南21 ・総論：「認識」と「実践」（藤井） ・「民主主義」と「権威主義」（藤井） ・「保守主義」と「リベラリズム」（藤井）													
統合科学・少人数演習付：実践的・人文社会科学入門 YP03(2)へ続く...													

- ・「緊縮財政」と「積極財政」（藤井）
- ・「現代貨幣理論（MMT）」（藤井）
- ・「グローバリズム」と「ナショナリズム」（１）（２）（柴山）
- ・「アベノミクス」とは何か？（藤井＆柴山）
- ・「政治」と「文学」（１）（２）（浜崎）
- ・「国民国家」と「近代文学」（藤井＆浜崎）
- ・「現実主義」と「理想主義」（国際関係）（川端）
- ・「社会契約説」と「有機体国家論」（川端）
- ・「政教分離」と「祭政一致」（川端）
- ・「テクノロジー」と「思想」（藤井＆川端）
- ・試験

Key Word: 批判的思考，アカデミックリテラシー，リサーチリテラシー

少人数演習

C班「文芸批評と人文社会科学」（担当：川端・柴山・浜崎） 月曜4限・共北3B

グローバル化した現代だからこそ重要なのは、他国と関わる上での「自己像」、要するに、近代日本の「自己像」である。もちろん、その「自己像」は、個人の場合と同じく、過去の歴史的経緯に基づいて反省されなければならない。そして、その「反省」を歴史内在的に担ってきた言葉こそ、文学・批評・思想の言葉であった。

この授業では、近代日本の「自己像」を形成してきたテキストを順次取り上げながら、それを読解し、また参加者の議論によって、その解釈を深めていきたい。

日本とは何か、近代とは何か、そのような大きなテーマを、ある個別具体的な状況のなかで書かれたテキストに沿って考えていくこと、それが本講義の目的である

第1回—イントロダクション#8212「戦前」とはどのような時代だったのか（講義）

第2回—イントロダクション#8212「戦後」とはどのような時代だったのか（講義）

第3回から第14回（ゼミ形式＝読書会形式で、以下に例示する各種テキストを読んでいく）

夏目漱石「現代日本の開化」

石川啄木「時代閉塞の現状」

西田幾多郎「善の研究」（一部抜粋）

小林秀雄「様々なる意匠」（２回程度）

保田與重郎「文明開化の論理の終焉」／萩原朔太郎「日本への回帰」

坂口安吾「墮落論」

福田恆存「一匹と九十九匹と#8212一つの反時代的考察」

吉本隆明「転向論」

江藤淳「戦後と私」

三島由紀夫「文化防衛論」

柄谷行人「マクベス論」

第15回 フィードバック

[履修要件]

特になし。特別な予備知識は必要とせず，文系・理系を問わず全学部生向けに授業を行う。

[成績評価の方法・観点]

（14回の授業での平常点（出席と参加の状況など）と最終発表で評価を行う。各評価項目の割合の詳細は，初回の授業で説明する。フィードバック授業は評価の対象外である。

[教科書]

未定

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書，授業資料の要点を予習・復習する。

[その他（オフィスアワー等）]

授業で学んだことを，大学での学び全体に活かして実践して，振り返ることを期待する。

[主要授業科目（学部・学科名）]